

ICCEES の一連の会議について

去る 8 月 5-6 日、幕張の神田外語大学において、ICCEES の執行委員会及びカウンスル会議が行われた。その最大の使命は、2 年後に行われる世界大会の主要会場である神田外語大学を視察し、世界大会の準備状況を点検することであったが、そのほかにもモンゴルの全国学会（The Mongolian Association of Central and East European Studies）の ICCEES 加盟承認、カザフスタンにおける全国学会形成の状況など、重要案件が討議された（モンゴル加盟問題については、http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/iccees2015/text/Protocol_Ulaanbaatar2.pdf 参照）。

会議に付属して 8 月 6 日に開催された研究会では、越野剛、亀田真澄、長縄宣博、羽場久美子の 4 氏が下記のテーマで報告した。

Go Koshino (Hokkaido University) “Russian Female Warriors in the Napoleonic War of 1812: Nadezhda Durova and Vasilisa Kozhina”

Masumi Kameda (Tokyo University) “Obsessed by the Live: Soviet Official Culture, 1917-1940”

Kumiko Haba (Hosei University), “Comparison of EU and East Asian Integration”

Norihiro Naganawa (Hokkaido University), “The Hajj from Tatarstan and Dagestan in the Post-Soviet Era: State, Money and Politics”

8 月 7 日には、ICCEES 幹部たちは、世界大会の熱心な支援者である熊谷俊人千葉市長を表敬訪問した。話題は ICCEES 世界大会への支援要請にとどまらず、高齢化への日本の自治体の対応、フクシマ以降の自治体のエネルギー政策の変化などに及んだ。



千葉市長と ICCEES 幹部及び各国スラブ学会代表者

8 月 8 日には、ICCEES 幹部の多くは、スラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンスに参加するため大阪に移動した。同日の夕刻には、グラム・ギル ICCEES 会長、イリーナ・サンドミルスカヤ同副会長の参加のもとで第 6 回東アジア・スラブ研究全国組織サミットが行われ、ICCEES に新規加盟したモンゴル学会（MACEES）が今後、東アジアのスラブ研究者コミュニティの一員として活動することなどを承認した。最大議題であった 2014 年の東アジア・コンフェレンスの開催地選定は、有力候補地であった韓国学会（KASS）がサミットを欠席していたため決定には至らなかった。しかし、後に、KASS が強い開催意欲を表明したため、2014 年のスラブ・ユーラシア研究東アジア・コンフェレンスは、6 月にソウルで行われることになった。

なお、大阪での東アジア・コンフェレンス直前というハードな日程であったにもかかわらずこれら行事をつつがなくこなすことができたのは、国際千葉コンベンション・ビューローと神田外語大学の支援協力があったからである。深謝したい。